

(別紙 2 - 1)

令和 4 年 1 1 月 2 1 日

二本松市議会議長 様

会 派 名 真誠会

代表者名 佐藤 有



視察・研修報告書

当会派において、下記により視察（研修）を（に）実施（参加）しましたので報告いたします。

記

1 期 間 2022 年 11 月 2 日（水）～ 月 日（ ）

2 参加者 ① 佐藤 有 ② 堀籠 新一

③ 佐久間 好夫 ④ 坂本 和広

⑤ 高宮 正彦 ⑥

3 視察（開催）地及び視察（研修）内容

別紙のとおり



(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真 誠 会
氏 名 江 新 月

○ 月 日 4年 11月 2日 (~ 日)

○ 場 所 宮城県仙台市国際センター

○ 内 容 2040 年 策 画 ショー

○ 視察・研修の感想

2015年の国連総会で採択されたSDGsであるが、企業、自治体、市民が連携し、地球と共生し循環型社会づくりなど17の目標にむけての研修であり、とておなじ目標であり、我が国だけでなく諸外国でも、と積極的に地球全体で実行しなければならぬと実感した。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

本市は、積極的に推進しているのでは、今の状況で、もっと確実に推進してまいりたいと思う。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 名 真 誠 会

会 員 名 堀 籠 新 一

視 察 日 令和 4 年 11 月 2 日 (水)

視 察 先 仙台市青葉区青葉山 2040 未来ビジョン出前セミナーin 仙台

視察内容 「行政、企業と地域をつなぐローカル SDGs」
講師 高浦康有氏 (東北大学大学院経済学研究科准教授)

視察の感想

講師の高浦氏は学外役職で、一般社団法人 SDGs とうほく理事として活躍されています。その方向性として、2030 年まで 17 の目標にむけて、企業・NPO/NGO・自治体・大学、そして市民が連携し、地球と共生する循環型社会を、東北ならではの課題に向き合い、魅力を広げ、一人ひとりが幸せに暮らせる新しい文明の魁となるように、頑張っている姿が勉強になりました。

視察の成果、市政への反映等

※視察の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

今回の研修に於いて、改めて SDGs のスローガン、誰もが置き去りにしない (人権の尊重) ことを 17 の目標を掲げて、「生物圏」で 4 事業「社会圏」8 事業「経済圏」4 事業で、最終の頂点「SDGs 目標 17」では、国や企業をはじめとした全世界の人々がパートナーシップを組むことで、持続可能な社会になることを詳しく知ることが出来ました。

今回の講習にて先進事例や体験を拝聴しましたが、この事業は国や県それに各自治体が連携して、取り組む課題であると思います。本市として取り組んでいるものもあります。しかし、達成できない課題が多いと思う。市全体で取り組みをすればと、思う。

(別紙 1—2)

視察・研修報告書

会派 真誠会
氏名 佐久間 好夫

○月 日 令和4年11月2日(13:30~15:30)

○場 所 宮城県仙台市 仙台国際センター

○内 容 2040未来ビジョン出前セミナー in 仙台

- ・11月2日(水)
 - ・主 催 全国市議会議長会
 - ・開催市議会 仙台市議会
赤間仙台市議会議長の歓迎の挨拶あり。
 - ・講 演「行政・企業と地域をつなぐローカルSDGS」
高 浦 康 有 (東北大学大学院経済研究科准教授)
 - ・実例を参考にパネルを活用してのSDGSの取り組みを説明した。
宮城県南三陸町戸倉地区における海産物の詰め合わせ販売等
漁業体験事業を通じ湯手かな海を守る取り組みとその必要性、決まりを守る事の大切さについて発信し、海藻類の廃材を有効活用しての体験ワークショップを行うなど、フードロスの削減にも努めており、雇用管理と子供の事情による短時間勤務や休みの融通を利かせ、フルタイムで働けない子育て世代の雇用を創出している。
 - ・地方創生SDGSを原動力とした地方創出として、持続可能な街づくりや地域活性化に向けた取り組みの推進に当り、SDGSの理念を取り組込むことで、政策の全体最適化、地域課題解決の加速化という相乗効果が期待される。
 - ・SDGS未来都市や自治体SDGSモデル事業等の10事業をモデル事業として選定し、選定事業に補助金交付等(上限設定して)交付する。
- ※ 他に、森林資源の活用や被災地の大麦を利用したクラフトビールの醸造等、更には食生活による生活習慣病のリスクと住民参加の地域健康の食育セミナーの活動等実例による説明等があり、短時間であったが有効であった。

(別紙2-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真誠会

氏 名 坂本 和広

○ 月 日 2022年 11月 2日

○ 場 所 仙台国際センター

○ 内 容 行政、企業と地域をつなぐローカル SDGS

○ 視察・研修の感想

日本の抱える SDGS への課題

1、つくる責任使う責任 プラスチックごみ輸出

2、ジェンダー平等を実現しよう 女性の社会参加等

3、気候変動に具体的な対策を 化石燃料の燃焼とセメント製造による CO2 排出量

4、海の豊かさ・陸の豊さを守ろう EEZ での漁獲量の多さや陸上の絶滅危惧種の多さなど

5、パートナーシップ ODA 等の国際協力の低さや金融機関の秘匿性の高さ

ジェンダー平等や気候変動対策など自治体でも対策のできることがあると感じた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

ふるさと納税を活用した子供食堂や子供宅配（佐賀）や SDGS 未来都市宣言による本市としての市民への意識高揚を図り、健全で持続可能な自治体運営に資する事業提案に努めていかなければいけないと実感した。

(別紙2-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真誠会

氏 名 高宮 正彦

○ 月 日 2022 年 11 月 2 日 (～ 日)

○ 場 所 仙台国際センター

○ 内 容 行政、企業と地域をつなぐローカル SDGs

○ 視察・研修の感想

SDGs での世界の取り組みの説明や日本の取り組みへの説明をお聞きしました。
日本の場合プラスチックゴミや人口芝などが問題で現在、対策を企業と共同で
行っている。

地方の取り組み等もお聞きいたしましたが、地方性などでその地方に合った
取り組みを行っている。

個人が SDGs への取り組みを考えながら行動していく事が大事だと思います。
そうする事により企業と行政が SDGs への取り組みを行い易くなると感じて
きました。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

① SDGs 17 の目標をよく考え、また伝えることが大切であると考える。

② 空き家・空き施設の再利用。

③ ジェンダー平等から誰もが活躍できる街づくりの推進。

④ 市内全域の上水道設備早急に整える。